

JAITI 50

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL jaiti@janis.or.jp

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 公益財団法人 日本農業研修場協力団
事務所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

今日のジャイチ

「ガソリンが入ってこないのでも車が動かさない」「あつても値段は今までの5倍以上もしてますよ。」
日頃、やり取りをしているカトマンズのジャイチネパール事務所のK.C氏とのこうした情報交換は、もう何か月続いているでしょうか。

ネパールでは、昨春の大地震災害の復興の方向性も見えない状況に加えて、また新たな課題に直面しています。一日も早い復興を望む私たちからすると、「どうなってしまうのだーネパールは。」と思われてなりません、厳しい中でありながらも限られた現実を受けとめて暮らしを守るネパールの人達の真の逞しさがそこにあるのかも知れません。一歩ずつ、あせらずに、そんな言葉が脳裏をよぎります。このニュースレターが皆さんのお手元に届く頃には、こんな心配も吹き飛んでいることを願っています。

◆新たな問題

”なぜ燃料不足が”

二〇〇八年の民主化以降、長年に亘って議論が行

われてきた新憲法が漸く昨年の九月に公布されたものの、新憲法の焦点であった八つの連邦州とする区割り設定を不満とする南部地域の住民がインドとの国境の一部を封鎖していることにより、特にガソリンやガスなど燃料資材のネパール国内への物流停滞が長期化しています。これには、



▲教室の完成を待ちわびる3年生 バシファント校

インド政府が南部住民の背後で意図的に操作しているのではないかと見方も一部ではされています。

す。様々な物資を国外に依存しているネパールにとって、もつとも頼るべきインドからの供給制限は、復興はもとより国民の日々の生活に大きな影響を及ぼしており、早急な政府の対応が望まれています。

◆復興に向けて

記録的な大災害となったネパール大地震から、早いもので九ヶ月が経とうとしています。ジャイチでは、発生直後から多大なご支援をお寄せいただいた皆様のお力の元に、鋭意、一日も早い復興に努めています。最も早急に対応しなければならなかったバシファント学校の三年生の教室の建替え工事は、厳しい情勢の中

ではありましたが、昨年内に本体工事を完了させることができました。(二面参照) 資材不足に加え、建築業者の現地での確保にも困難があつたため、今回の工事には、カカニ地区の業者に遥々バシファントの地に向いていただきましたが、出来る限り地元の人たちの雇用にもつながるように配慮されました。基礎工事の際には校長先生自ら工事の安全を祈る姿が見られました。

比較的温暖なカカニ地区とバシファント学校のある



▲3年生教室の工事に携わる人たち

地域とでは気候も違うため、バシファントの寒さを経験していないカカニの作業従事者にとっては相当肌身に応えたとの話も聞かれましたが、一段と寒さが増すまでに終えることができ、ホツとして思っています。

完成を待ちわびていた生徒たちも、新しい教室で心機一転、元気に学校生活を過ごしてくれることを願っています。

◆その後の学校

カトマンズ市街地での地震災害は、ダルバール広場に見るような王政時代の古い建築様式の建物に大きな被害があつたものの、その他の建物では比較的軽微な被害に留まったと言われていますが、山間農村部では倒壊の甚だしい家屋も多く、その復旧に迫られ生活への圧迫は免れない状況にあることから、子ども達の就学にも影響が見られます。震災直後に比べると、登校する生徒数は回復してきているとはいえ、カカニ・ブライター学校では、一昨年十一月時点には三〇五名であつた生徒数が昨年同期では二七五名となっており、特に女子生徒の減少が目立っています。生徒数の減少はブライター学校の運営に関わることもあることから、周辺の児童への就学支援による呼びかけや教員のモチベーションを高めるための研修会の開催などを通して、カカニ地域において質の高い教育施設としての役割を担う学校づくりに努力を続けています。

また、バシファント校でも同様に、現在の生徒数が四八八名と、前年同時期の五〇〇名を超えていた生徒数には至っていません。一日も早い復興が望まれます。



▲次は私たちの出番!ドキドキでも頑張るぞ!文化祭で踊りを発表する生徒たち カカニ・ブライター学校で

ジャイチ ネパールから

教員研修を開催

十一月六日・七日の二日間、カカニ・ブライター学校において小学校の教師を対象に、資質向上のための研修会を行いました。

この研修会はジャイチネパールが企画し、モッテツソリー・トレーニングセンターの協力で行ったもので、この研修会には、ブライター



▲講師の指導を受けグループに分かれてトレーニングを行う教師たち

学校の教職員のみならずカカニ地域の他の小学校の教師たちにも参加を呼びかけて、トレーニングセンターから派遣された講師四名の指導を受けながら、プログラムに沿って活発なトレーニングが行われました。

参加した二十九名の教師たちからは、非常に有意義な研修だったので、これからも時々行って欲しいとの要望が出されました。終了後には、参加者全員に証明書が渡されました。

ビム・ラル・グルン

教室の再建

昨春の大地震は、ネパール各地に大被害をもたらしましたが、ジャイチネパールが管轄するバシファント学校とブライター学校も大きなダメージを受けました。また、家の倒壊により両校の生徒が一人ずつ亡くなつてしまいました。

被害を受けた学校施設の復興にあたっては、カカニ・ブライター学校はジャイチが、また、バシファント学校は地元の父兄で組織する学校運営委員会（SMCC）の責任において行うべきですが、相当の復旧費用が必要となっております。

特に、バシファント学校の三年生の教室は再建工事をしないと授業を再開することができなくなっている



▲完成間近い3年生の教室

状態でしたが、両学校の復旧工事費用と被災した生徒たちへの教材費や授業料として、日本のジャイチから支援をいただき工事を始めることができました。

ところが、工事を始めた矢先にインド国境での物流の閉鎖という大問題が発生し、ネパール国内では、資材の不足と高騰という困難な状態に陥っています。しかしながら、日本からの支援のお陰で三年生の教室の再建工事は順調に進み完了する段階になりました。

(十二月十日時点)

引続いてカカニ・ブライター学校の修復工事に着手する予定です。

ビム・ラル・グルン



▲被災後も学校行事は変わりなく行われている(カカニ・ブライター学校)

更なるご支援を お願いします。

ネパール震災の復興は、まだ、緒についたところ değildir。しかしながら、先の見えない現情勢下では、これまでのような生活を取り戻すのには相当の年月が掛かることが予想されます。ジャイチにおきまして、これらの状況に沿った支援を継続していくためには、皆さま方のご支援が必要となっております。

なお、公益としての社会的責務を果たすため、皆さまからの寄附金は、その年度年度に全てを公益事業と



▲瓦れきはだいぶ片づいてきているが、建物の取り壊しや修復はまだこれから

して執行していくこととなることから、ジャイチの財政基盤にも大きな影響を及ぼしています。事情を参酌いただき、更なるご支援をお願いいたします。



▲大地震後それまで枯れていた水汲み場に水が出るようになり洗い物で賑わう

ご支援をいただきました皆さまへ

今回のネパール大地震災害にあたりましては、発生直後から支援者の皆さまをはじめ、大勢の皆さまに御理解をいただき積極的に募金活動にご協力をいただきました。そのご厚情に感謝と御礼を申し上げます。

現在、ネパールでは新憲法制定を進める段階の中で、反発する地域の行動によってネパール国民の生活を始め、経済活動に大きな支障が出始めており、ガソリン、ガスをはじめ復興に必要な資機材類の不足と価格高騰が進んでいる状況にあります。こうした状況とは言え、政府の対応は好転の兆しが見えず、復興予算もほとんど執行されていないとの報告もあります。

当ジャイチでは、お陰様で目標を上回る募金を寄せていただき、災害復旧支援に大きな力をいただくことができましたことから、現地機関のジャイチネパールと協議をしながら、着手可能な復旧作業に取り組んでいるところであり、現在までに被害の甚だしかったレカリ・バシファント学校の教室の再建築も完成に至り、併せて、カカニ・ブライター学校の修復、生徒への就学支援を進めています。また、当該地区で避難生活をいまだに余儀なくされている方々の住環境の向上のための支援も含め、一日も早く平常な生活に戻ることができるよう努めてまいります。

終わりに、ご支援者皆皆さまのご厚志に重ねて深謝申し上げ、今後とも変わらぬご支援を賜れますようお願い申し上げます。

平成28年1月

公益財団法人日本農業研修場協力団
代表理事 小林 淳

お寄せいただいた募金総額 5,664千円

募金の使途(平成27年12月末までに支出された金額)

カカニ・ブライター学校

就学支援(授業料、教材等の支援) …… 1,400千円
学校施設修繕(教室、学生宿舎などの修繕) …… 1,325千円

レカリ・バシファント学校

就学支援(授業料、教材等の支援) …… 690千円
学校施設修繕(教室の再建築及び修繕) …… 700千円

ジャイチネパール事務所 施設修繕 …… 500千円

(今後の支援予定)

上記の補完および避難地域の住環境向上、地域医療施設への支援など

お陰様で50号 ジャイチニュースレターが 50号の発行を迎えました。

1991年(平成3年)6月に第1号が発行されてから、今号で50号となりました。年2回の発行ですから、足掛け25年が過ぎたこととなります。

“ネパールの人々とともに”をコンセプトに、ジャイチの活動が始められたのは、それ以前の1989年(平成元年)でしたので、ジャイチは27歳を迎えることとなります。

これも日頃から活動にご理解とご協力をいただいております皆様方のお力のお陰と、深く感謝申し上げます。今後とも、ご支援のほどを宜しくお願い申し上げます。



ネパール「農場と学校」訪問の旅
第1回ツアーが19名の参加により行われました
(第1号:1991年6月)



**シンバンジャン農業実践学校
(現バシファント学校)に30人入学**
4月15日待望の開校式入学式が行われました
(第5号:1993年7月)



**イチゴ栽培者約20名に
カカニ農場の育成苗で
栽培者がこれからも増える見込み**
(第12号:1997年1月)



バシファント学校寄生虫調査
学校における寄生虫症の実態と
子供達の健康調査が行われました
(第17号:1999年7月)



バシファント学校自立に向けて話し合い
父兄代表と先生による話し合いが始まりました
(第25号:2003年7月)



カカニ新学校が開校
予定より半月遅れの5月1日に開校しました
(第29号:2005年7月)



ネパール連邦共和国の誕生
240年続いた王朝が幕を閉じました
(第35号:2008年7月)



バシファント学校は地元移管に
3月の卒業生をもって完全に移管となりました
(第43号:2012年7月)



カカニ・ブライター学校初めての卒業生
開校から10年が経ち初めてとなる卒業生を送り出しました
(第47号:2014年7月)



ネパール大地震
ネパール中部で4月25日M7.8の地震が発生
(第49号:2015年8月)

「ロブサン・テンジン・シエルパさんを悼む」

ジャイチの基礎を築く際に多大な協力を惜しまなかった功労者ロブサン・テンジン・シエルパ(LOBSANGTENZING SHERPA)さんが、二〇一三年八月五日にカトマンドウの自宅で亡くなりました。享年六四歳、癌でした。

ロブサン氏と私が一九八六年に出会ったのが、ジャイチの原点なのです。

当時、彼は長野県駒ケ根市にあり、青年海外協力隊駒ケ根訓練所でネパール語と英語の先生として活躍しており、訓練生や関係者からは「シエルパ先生」と呼ばれて親しまれていました。当訓練所には三十年以上に亘って勤務をされました。

これからのネパールに大切なことは、農業の発展と基礎教育の充実との思いが一致し、二人で基本構想を練っている中、私たちの思いに呼応して資金提供を表明してくれた故小林榮さんが加わり、一九

八九年にネパールで農地探しに着手しました。

ロブサン氏が見つけた出所した何ヶ所かの候補地の中から、カカニ地区にある土地を選定して購入し「カカニ実験研修農場」が生まれました。

次は、ロブサン氏の夢であった基礎教育の充実のために、亡き父アン・タルケイ氏が晩年こよなく愛したシンバンジャ

ン地区に十年制の小・中学校を開設することにして、用地は、アン・タルケイ氏が終の住処として遺した土地の一部の三十五ポニー(約四、八〇〇坪)：二〇ポニーは約四五十坪を五十年間無償で提供を受けることで始まりました。

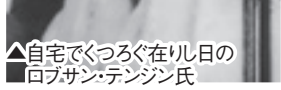
しかしながら、一九九二年に彼は「私は向こう五十年生きられる保証はない。後日ト



▲建設初期のバシファント学校遠景

ラブルが起きない為に、ジャイチに寄附する。」との申し出があり、土地を法的に処理して受け取りました。これが、バシファント学校の始まりで、現在は目的どおり村の学校運営委員会へ全面移管してジャイチから果立ちました。

それらに先立ち、一九九一年、カトマンドウに現地事務所を開設する時も、ロブサン氏はインド大使館に隣接する自宅の応接室を提供して



▲自宅できつるぐ在ル日のロブサン・テンジン氏

えさせていたいただきました。

2015年8月11日〜2015年12月20日 順不同 敬称略

ご協力有難うございました

この五ヶ月の間に、左記の方々より、ご支援を戴きました。お礼申し上げます。

◆人的協力

- 〈栃木県〉マン／マルコス・バハドール・シュレスタ
- 〈茨城県〉大井英臣
- 〈千葉県〉品川潤子
- 〈東京都〉(財)砂防フロンティア、滝和美、田山豊實
- 〈長野県〉白井千鶴子、柿島明子、金子仁乃、菊池健介・道子、(株)北澤土建、(有)佐藤新聞店、田村由紀子、徳武敏幸、根岸厚次・真貴子、松久よし子、宮入正法、宮下篤
- 〈海外〉ネパール ホテルサンセットビュー・アルジュン・シン／絃子・トラチャン

◆寄附品

- 〈群馬県〉南場宏子
- 〈千葉県〉青木洋、神田實久米知恵子
- 〈東京都〉新林てる子、川口律子、滝和美、田山豊實、西重正博、本間弘之、山縣敏子、山田まゆみ
- 〈神奈川県〉堀内フサ子、上村陽子
- 〈長野県〉あーすの会、白井千鶴子、柿島明子、加藤美幸、金井善男、菊池健介・道子、小林淳、斎藤三美、田村由紀子、(株)長門牧場、長門郵便局、矢嶋榮子、(有)美ヶ原燃料
- 〈京都府〉京都市立芸術大学 教務学生課、趙英子
- 〈滋賀県〉苗村善和
- 〈兵庫県〉丸尾信
- 〈福岡県〉山下きよし
- 〈鹿児島県〉小田原孝之
- 〈ネパール〉直接 滝和美

- 俱子、高橋節子、武藤貴子、横館久宣、吉村芳江
- 〈東京都〉朝倉政雄、今井正史、鎌田はなよ、河野節子、黒田秀基、篠原学園医療情報管理科クラス相原礼奈・荒井萌恵・鈴木延枝・茂木志保・松本直樹、弁護士須田清、田山豊實、西岡巖、西重正博、野村明賢、花田美幸、松田重實、矢田勝子
- 〈神奈川県〉島田正義、田中光弘
- 〈長野県〉(株)アオヤギ印刷、(有)イーグル開発、石橋久夫、稲垣勇一、上田高等学校生徒会、内山富之、川合宣勝、菊池健介、北澤純、高本洋子、木口憲爾、小林淳、小林展子、斉藤諄子、国際協力フェス佐久佳快代、武田順治、長野県連合青果(株)、中村由美子、(有)花岡代表取締役花岡かつ子、花岡静枝、舟木公榮、牧幸男、松久よし子、松林進、丸山幸雄、宮下静子、ジャイチ事務所 所寄付金箱
- 〈新潟県〉小森修
- 〈静岡県〉伊熊武夫、岸本峰子
- 〈愛知県〉伊藤正裕、神田孝子、小園四男、安田美奈子、依田惇
- 〈三重県〉日紫喜清文
- 〈滋賀県〉岡田千尋、西村敏松延宏昭
- 〈京都府〉山本友恵
- 〈兵庫県〉新海泉
- 〈和歌山県〉中前孝啓
- 〈愛媛県〉和田順子
- 〈福岡県〉山下きよし
- 〈ネパール〉直接 川辺幸代、品川潤子、滝和美

◆寄附金

- 〈北海道〉千葉八洋、水口馨
- 〈岩手県〉松本沙弓
- 〈秋田県〉木村剛
- 〈福島県〉岡村健
- 〈茨城県〉魚津慶子、折本拓郎、藤井英雄
- 〈栃木県〉森聖哉、渡辺アース
- テック(株)・芙蓉レンタル(株)
- 〈群馬県〉齊藤孝夫、島田寛治
- 〈埼玉県〉小澤昭信、小野美津男、斉藤節子、坪田美恵子
- 〈千葉県〉青木洋、浅井邦彦

- 今後とも宜しくお願ひします。

合掌

菊池 健介

二〇一五年十一月

事務局だより

▼ジャイチ

- 8月 ・機関紙49号発送
・地震災害業務
- 9月 ・国際交流フェスティバル inSaku参加
- 12月 ・理事会 平成27年度 上半期事業報告等
・機関紙50号企画・編集

バザーをありがとうございました。

・国際交流フェスティバル in Saku(長野県佐久市)

▼ジャイチネパール▼

- 8月 ・レカリ・バシファント校地震災害復旧工事開始
・ライター校教室修理・床塗装、雨樋修理
・余震あり
- 9月 ・バシファント校スペシャルコンペ、ファンゲーム、ダンスコンペ実施
・ネパール新憲法公布
・余震でライター校3・4年生の教室のひび割れ拡大
- 10月 ・バシファント校の3年生教室解体工事開始
・国境地域問題で燃料不足深刻
・デザインとティハール祭休暇
・バシファント校にガム電力会社からソーラーパネル、コンピューター等の寄付
- 11月 ・バシファント校3年生教室基礎工事開始
・ライター校で教師研修会・文化祭
・レカリ校屋根トタン修繕終了
・電力不足による停電多発
- 12月 ・バシファント校運営委員会長の選挙
・バシファント校3年生教室工事終了

余震で恐れる妹を慰める兄 (絵マン)



長先生から生徒たちにメッセージが紹介されました。その後、バシファント学校の生徒たちから上田高等学校の生徒たちに向けて、支援の感謝の思いを込めた力強いメッセージが送られ、今回の災害を通じて交流の場が生まれました。

メッセージカードで交流

「負けるな」心をひとつにして乗りこえていきましょう

「顔の見えるネパール震災支援」に自主的に取り組んだ長野県上田高等学校では、募金活動や文化祭活動を通じて、一日も早い復興を願うとともに、被災地の皆さんが震災に負けないで元気に生活を送るようとの応援のメッセージカードを作成し、ジャイチを紹介してレカリ・バシファント学校に届けました。バシファント学校では、全校集会の場でラルラル・マンダラ校長先生から生徒たちにメッセージが紹介されました。



▲バシファント校から上田高等学校へ贈られたメッセージ



▲長野県上田高等学校から贈られたメッセージを生徒に紹介(バシファント校)

募集予告

「JAITIネパールの農場と学校訪問の旅」

- ◆日程 十月下旬から八泊十日の予定
- ◆旅行代金 お一人様三十万円の予定

交通費(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食事代を含みます。但し、日本国内の交通費と海外旅行保険は別途になります。

- ◆企画 ジャイチ
- ◆主催 株式会社西遊旅行
- ◆最小催行人員 十名

物故者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますと共に今までのご支援に感謝いたします。

- 吉中 清子様 京都府京都市 十三年五月
- 和田 勝利様 愛媛県松山市 十五年
- 酒井大二郎様 福岡県北九州市 十五年七月
- 羽深 昌道様 千葉県佐倉市 十五年十月

集めています	
書き損じハガキ	切手に替えます(未使用ハガキ・年賀ハガキの余りも歓迎) ▶通信費として活用します。
文房具	定規・未使用鉛筆 ▶学校生徒用
毛糸	帽子を編みます ▶レカリ・バシファント学校1・2年生用 編みぐるみ・タワシなど ▶バザー用品をつくります
布	はぎれ ▶ //
古切手	換金します(未使用切手も歓迎) ▶ネパールの両学校の運営費(切手の周りを5ミリ残してください)
日本手拭・タオル	未使用のもの ▶ネパールの学校用ほか

お願い

ネパールへのジャイチの荷物運搬(主に学校の布カバン・文房具等)のお手伝いをしてくださる方、是非ご連絡下さい。



編集後記

いつもであれば、ジャイチツアーに参加された皆さんの旅行記が紙面を飾るはずでしたが、本文でも触れましたように、ネパールの情勢を鑑みながら、昨秋はやむなく実施を見送りました。本来ならば被災地を訪れて復興支援に役買うことができましたら、との思いもありましたが、団体として予定どおりの行動ができる確証もなく、悶々としています。情勢が好転した暁には、皆さんとネパールを訪れたいと思います。